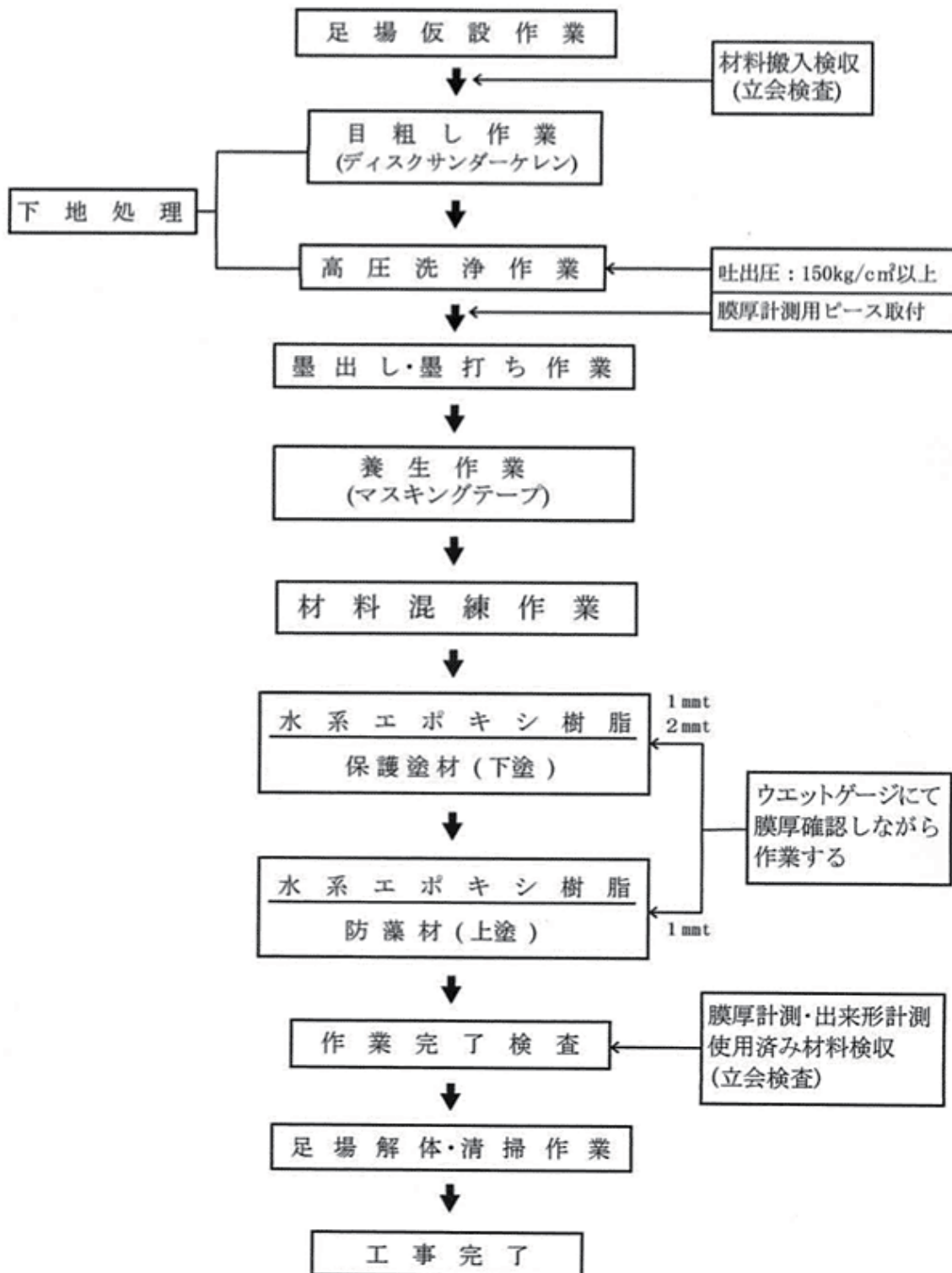




施工要領書 / 標準新設工事

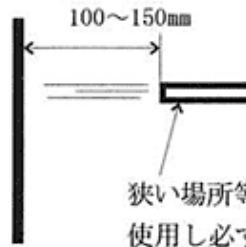
ポリマーセメント系防藻塗材 施工フロー図



作業手順書

分類番号	作業名称	
	防藻材塗覆工事	
作業区分	手順	品質、安全上の急所

<p>準備作業</p>	<p>1.客先との調整</p> <p>2.仮設足場の架設作業</p> <p>(1) KY活動の実施 作業内容、作業範囲の確認</p> <p>(2) 足場の架設 仮設足場計画書に基づき架設する (必ず2人以上の共同作業とし、材料の受渡しは、相互合図確認しながら作業する。)</p> <p>3.材料の保管及び管理</p> <p>材料搬入立会検収を受けるため、材料の数量が判明出来るように保管する。</p> <p>(1) 材料の保管は、あげ床のある倉庫に乾燥状態で保管することを原則とする。</p> <p>(2) 屋外に保管する時は、土・コンクリート面に接する事のないようパレット等を敷き、その上に積み重ねる(※材料別に保管する。)</p> <p>○ 積み重ね段数は(目安) Sコンパウンド(25kg/袋)は8段以下 PCエマルジョン(5kg/缶)は3段以下 Cコンパウンド(6kg/袋)は3段以下 着色剤(3kg/缶)は1段とする</p> <p>○ 材料の周囲は、風雨の場合でも、雨水の侵入のないようにシート数枚を重ね、トラロープ、又は他のロープで固縛する。</p> <p>(3) 使用材料の空袋・空缶は各工程毎に確認(対設計数量)し、過不足を把握し準備する。</p> <p>※ 各工程毎に使用数量を監督がチェックすることもあるので、その都度準備しておくこと。</p> <p>(4) 使用材料は Sコンパウンド袋、Cコンパウンド袋は、10枚づつ束ね固縛する。 PCエマルジョン容器はカッターで半分に切り10枚重ねて固縛する。</p>	<p>○ 安全帯、手袋などの着用。</p> <p>○ 単独作業の厳禁。</p> <p>○ 冬場は、氷点以下になる恐れのある場所には保管しないこと。</p>
<p>本作業</p>	<p>1.ディスクサンダーケレン作業(下地処理)</p> <p>(1) ダイヤモンド歯付きの治具を使用し、ケレン作業を行う。</p> <p>(2) 保護具(メガネ、マスク他)を着用し、小型プロワーでエアブロー確認しながらケレン作業を行う。</p> <p>(3) 施工面の上、下(端部)を+10mmマーキングし、余分にケレン作業を行う。</p> <div data-bbox="421 1473 1034 1758" data-label="Diagram"> </div> <p>● ケレン残し部分がないか全面確認する。</p> <p>● コンクリート脆弱部を確認する。 (脆弱部がある時は下地材で先行して修復する。)</p> <p>2.高圧洗浄作業</p> <p>(1) 洗浄機の筒先(ノズル)100mm~150mm距離をキープし施工面にノズルを直角に向け、全面洗浄する。</p>	<p>○ 片手作業厳禁、必ず両手作業とする。</p> <p>○ 30分毎に休みをとる。 適宜、マスクのフィルターを取替えながら作業を行う。</p> <p>○ ディスクサンダーのスイッチは、手元 ON - OFF 厳守する。</p> <p>○ 作業通路の整理整頓、コードの流れを確認しながら作業を行う。</p> <p>○ 単独作業は厳禁。</p>



狭い場所等を洗浄する時は短いノズルを使用し必ず直角に向け、洗浄すること。

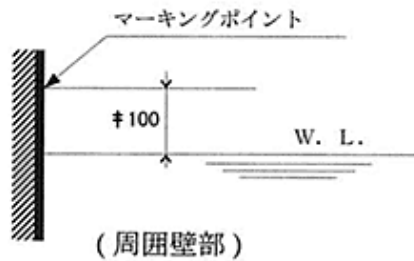
- 洗浄機の吐出圧: 150kg/cm²以上であることを確認する。
- 洗い残し部がないか全面確認する。
- コンクリートの水引き状態を確認する。

必ず2名以上の共同作業とし相互監視を行うこと。

- 洗浄ノズルのレバーは固縛しないこと。
- 作業通路の整理整頓、高圧ホースの流れ、ねじれ等の修正を確認しながら作業を行う。

3. 墨打ち・墨出し作業/養生作業

- (1) 設計寸法通りマーキングを行い、養生(マスキングテープ)作業を行う。
- 材料が飛散、落下するため、作業面の下部周辺のチェーンフライト、ホイール等はビニールシート等で養生する。

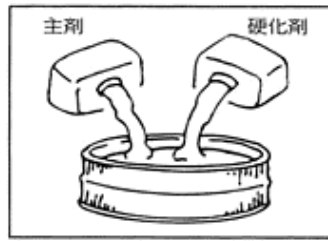


4. ピラコート及びラインガード調合・混練作業

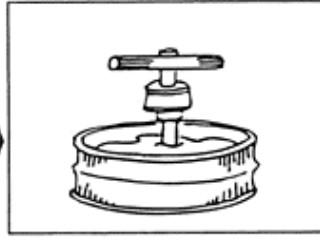
- (1) 材料の調合・混合
規定量のエマルジョンを混合容器に入れ攪拌し、各種塗材を下図の手順で混練する。
 - 材料は必ず、十分に攪拌すること。
 - 調合した材料は使用直前に再度攪拌し、使用すること。
- (2) 下地材・防藻材の塗覆面積
 - ピラコート(下地材)50kg/セット 約12.5m²/2mm厚
 - ラインガード(防藻材)50kg/セット 約17m²/1mm厚

- 材料の混合。
- * ピラコートは粘度調節で清水を5%加え調合する。
- * ラインガードは水で希釈しないこと。
- * 材料の混合は各混練材料の1/2づつ調合する。
- * 夏季は乾燥が早いので各混練材料の1/4づつを調合する。
- 混合容器の隅部は、特に入念に攪拌する。
- 気温5℃以下での調合はしないこと。

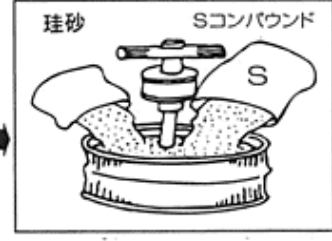
ピラコート混合手順 (下地材)



①容器にPCエマルジョンの主剤と硬化剤を入れる。

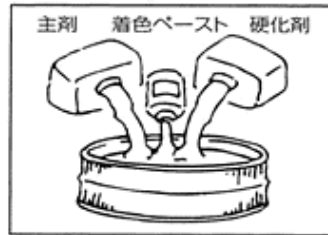


②約3分間攪拌機で十分混合する。

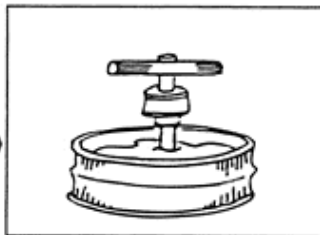


③Sコンパウンドと珪砂6号を徐々に加えながら約5分混練する。
* 粘度調整で水を5%加える。

ラインガード混合手順 (防藻材)



①容器にPCエマルジョンの主剤と硬化剤及び着色剤を入れる。



②約3分間攪拌機で十分混合する。



③SコンパウンドとCコンパウンドを徐々に加えながら約5分間均一になるよう混練する。

5.ピラコート(下地材)及びラインガード(防藻材)コテ仕上げ作業

WET・ゲージで膜厚を確認しながら、コテ仕上げ作業を行う。

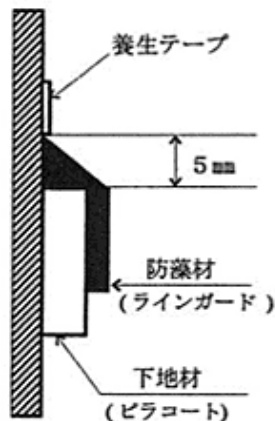
- ピラコート(下地材) 平均2mm厚
- ラインガード(防藻材) 平均1mm厚

(1) ピラコート(下地材)コテ仕上げ作業

- コテで2回塗りをして2mm厚に平滑に仕上げる。
(1回塗り1mm厚)
- コテ仕上げ作業後、養生テープを取り除き、端部を再度コテ押さえて仕上げる。
(目安)材料の半硬化時

(2) ラインガード(防藻材)コテ仕上げ作業

- コテで2回塗りをして1mm厚に平滑に仕上げる。
(1回塗り0.5mm厚)



- ピラコート(下地材)より5mm上方に養生テープを貼り、コテ仕上げ端部は図の様に埋める。

- コテ仕上げ作業後、養生テープを取り除き、プラスチックコテを使い入念に表面、端部を仕上げる。
(目安)材料の半硬化時。

- 作業後降雨が予想される時は必ず塗覆部をブルーシート等で多い養生する。

- 膜圧の確認。

- 使用材料の確認。

ピラコート

1mm厚 2kg/m²

2mm厚 4kg/m²

ラインガード

1mm厚 3kg/m²

- 作業通路の整理整頓を行う。

- 混練塗材について

- * 塗材は30~60分で使い切る。

- * 夏場は15~30分で使い切る。

- 作業について。

- * 5°C以下での施工はしないこと。

- * 必ずコテ塗りで仕上げること。

- * 刷毛引きで仕上げないこと。

- * 下地材はゴムコテ、防藻材はプラスチックコテを使用する。

後始末作業	1.完了検査 ラインガード(防藻材)コテ仕上げ作業完了後、客先の立会検査を受ける。 検査項目 ● <u>外観検査(施工範囲の確認)</u> ● <u>膜圧・出来形検査</u> ● <u>使用済材料(空袋、空缶)検査</u>	
	2.仮設足場解体、及び清掃 (1) 客先による立会検査後、仮設足場解体作業を行う。 (必ず2人以上の共同作業とし、材料の受渡しは、相互合図確認しながら作業する。) (2) 足場材を槽外搬出後、槽内及び周辺の清掃作業を行う。 (番線、落下材料の除去。) (3) 作業終了後、客先の確認を受ける。 ○ 清掃後の廃棄物、使用済材料(空袋、空缶)は全て場外排出処分とする。	○ 安全帯、手袋などの着用。 ○ 単独作業の厳禁。

標準工程表 (施工面積：300m²の場合)

工事名：防藻塗覆工事

工期 作業項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
足場仮設作業	■												
(下地処理) 目粗し・不陸調整 (サンダーケレン)		■											
高圧洗浄作業			■										吐出圧： 150kg/cm ² 以上
墨出し・墨打ち 養生作業				■									
水系エポキシ樹脂 保護塗覆材(下塗)				■	■	■	■	■	■	■			2mmt
水系エポキシ樹脂 防藻塗覆材(上塗)							■	■	■	■			1mmt
				← ウェットゲージにて膜厚確認 →									
作業完了立会検査 (膜厚・出来形)										■			
足場解体作業											■		
清掃作業												■	